

～限界集落の明日を生きる～
志越地区地域づくり計画



平成27年7月 策定

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
第1節 計画の目的	1
第2節 計画の役割	1
第3節 スローガン	2
第2章 地区の概況	3
第1節 志越地区の立地・歴史	3
第2節 人口の推移と構成	4
第3節 産業構造	6
第4節 地区の整備状況	7
第5節 生活環境	11
第6節 自治組織	14
第3章 地区の課題	16
第1節 地区診断	16
第2節 課題	20
第3節 課題に対する具体的な取組	23
第4節 今後の具体的な取組	25
第5節 課題解決の時期	30
第4章 資料編	31

第1章 計画策定にあたって

第1節 計画の目的

平成16年3月1日、対馬の六町が合併し対馬市が誕生した。平成の長き閉塞感からの脱却に期待していたが、少子高齢化の進行は早く、高齢化率は高まる一方である。地区唯一の水産業も停滞が見られ、地域経済はまさに危機的状況である。

この地域づくり計画を策定するにあたって、かかる現状を認識し、『住民による、住民のための計画』を基本に、地区内での住民の意見集約を行い、これからの地区の将来像を描き、それに向かって一步一步進んでいく指針となるようにした。

第2節 計画の役割

年々厳しさを増す財政状況の中、行政からの財政支援も乏しくなっていく状況である。行政との既存のあり方を見直し、新たな関係を構築していく必要がある。

第一として、地区の自立を促し、新たなまちづくりの基本として地域と行政の役割を定め、『住民と行政の協働のための指針』とします。

第二に、超高齢化社会が到来し、当地区の高齢化率は平成23年末現在で60歳以上の住民が4割を越え、さらに10年後は6割に達する見込みである。かかる現状では隣同士の助け合いは不可欠で、『相互扶助』を基本理念とします。

第三に、高齢化や修学職で島を離れ、それにより後継者不足は深刻さを増し、主産業である水産業も燃油高騰や資源枯渇、魚価不安定で停滞の憂き目にあっている。イノシシ対策や高齢化から生じる地区内外の環境美化、運転者のマナー低下による不法投棄など環境問題も浮かび上がっている。新たな問題として東日本大地震のような自然災害に対する防災対策も迫られている。豊かな自然と向き合い、活力ある地区を再創造し、笑顔あふれるまちづくりを目指す『地域活性化のための住民の行動指針』とします。

『しあわせ
こみゆにてい
えがお』計画

(志越再生計画)

第2章 地区の概況

第1節 志越地区の立地・歴史

- 地区の成り立ち

本地区は、対馬の中央部やや北側の東沿岸に位置する。背後に神山（標高344.5m）がせまり、それに連なる2～300メートル級の山々の崖地と小さな入り江のわずかばかりの平地に開けた地区である。

近接の志多賀地区の枝集落として発展し、大正期には以前から漁期になると対馬に出漁していた他県（主として瀬戸内方面）の漁民や、官山（国有林）開発に伴う林業関係者の定住が促進されてきた。これらの人々を在来住民を本戸と称するのに対し寄留と呼び、このひとたちにより新たに発展した若い地区である。

地形的に周囲を国有林に囲まれているため農林業は難しく、必然的に前面の好漁場を利用した水産業が主な産業となり、今日まで続いている。

人口は、志多賀の枝集落のため志越地区単独の大正期の資料は無く、戦後からの人口動態は昭和30年 151人、同35年 163人をピークに急激な減少を辿り、同60年 122人、平成2年 102人、同23年末 74人である。2035年予測では対馬全体で23年比で半減する見込みであるが、この地区はそれ以上の可能性がある。



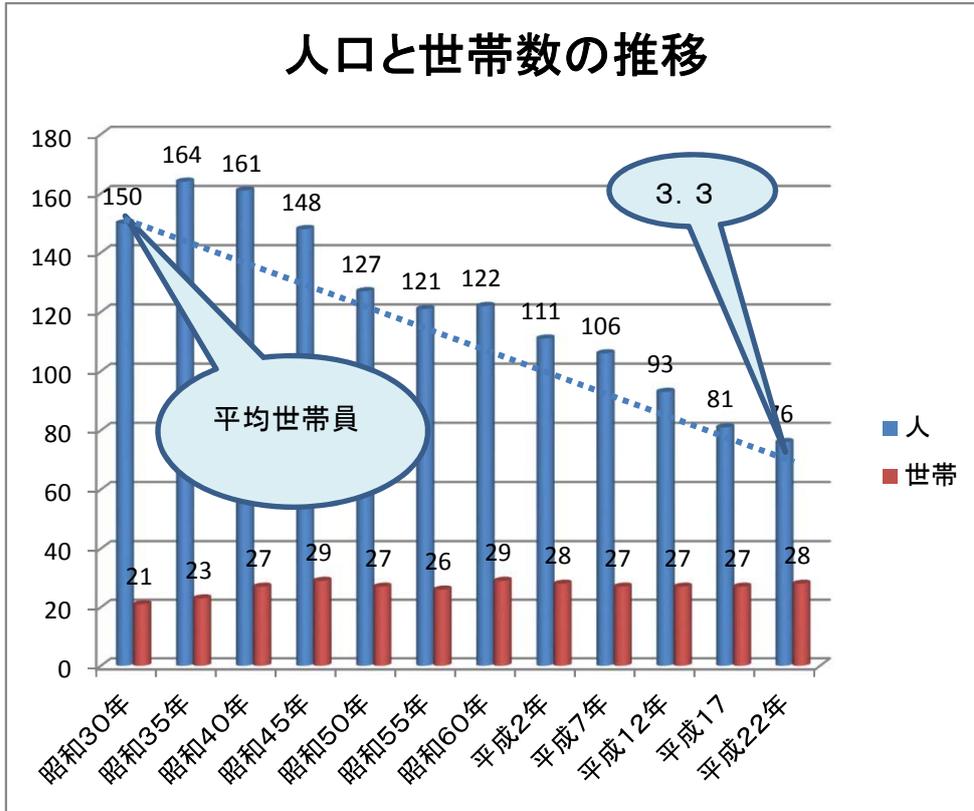
- 志越の名所旧跡

地区の成り立ちが1世紀未満と歴史が浅いため、独自の史跡は無い。

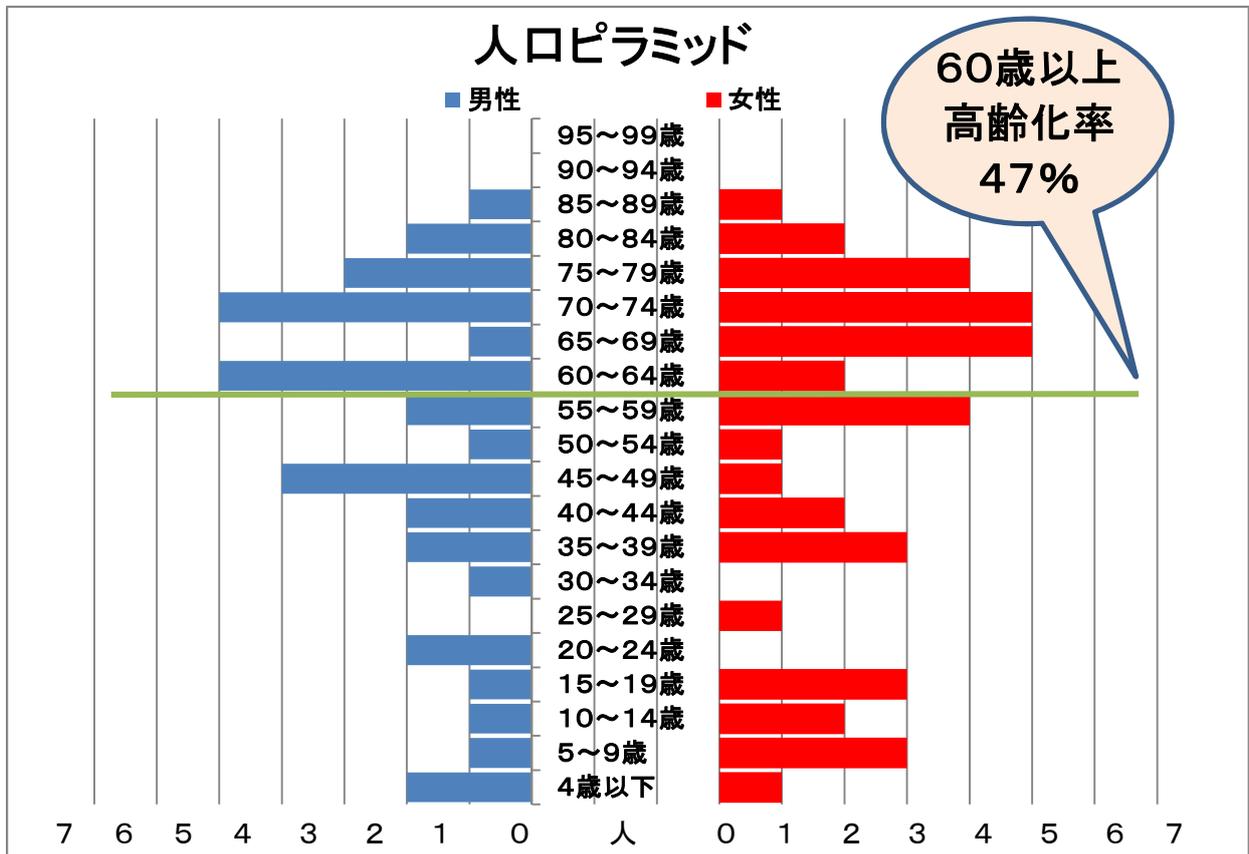
地区の右側に突き出た岬先端部には弥生時代の墓地『椎の浦遺跡』がある。5基の箱式石棺と2基の壺棺からなっている。1956年と1980年に調査され、出土した土器の特徴から、弥生中期初頭→後期初頭→後期前半→終末→古墳初頭の順序で造られたものであることが分かった。この内特に1号石棺に副葬されていた細型銅剣、把頭飾、鏝型青銅器、7号石棺の副葬品である内行花文鏡は韓半島製であり、弥生時代の対馬における対韓半島との交流に実態をよく示しているとされている。

第2節 人口の推移と構成

①人口と世帯の推移

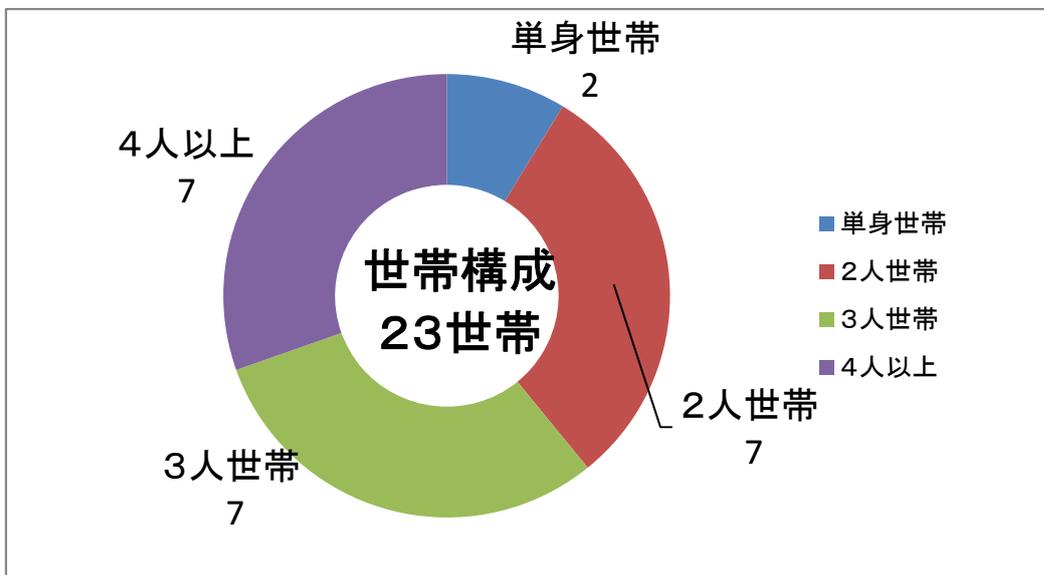


②人口構成（平成26年3月31日現在）

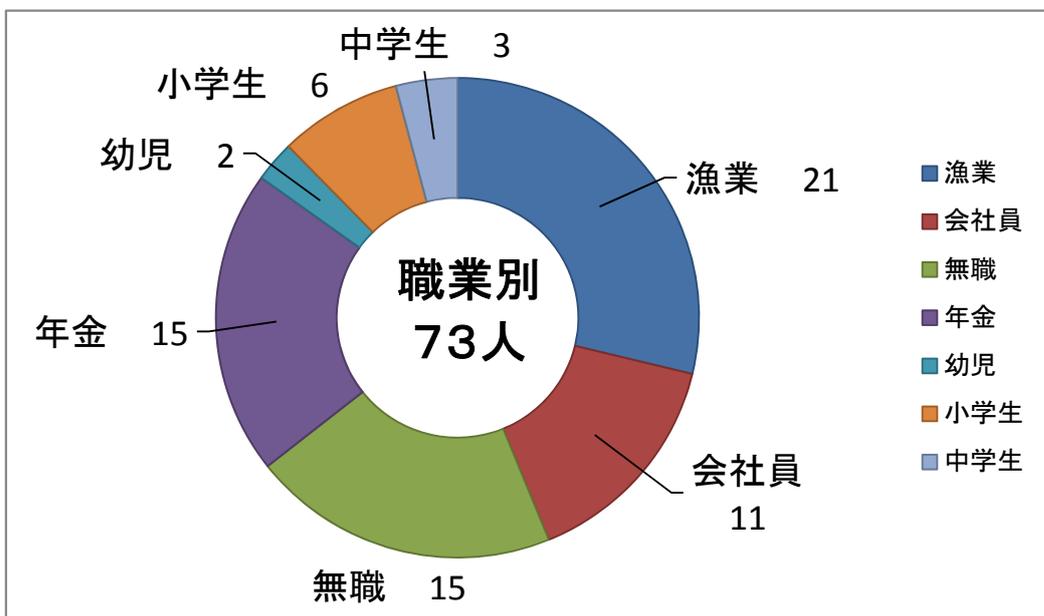


③世帯の状況

1) 単身世帯や複数世帯の割合



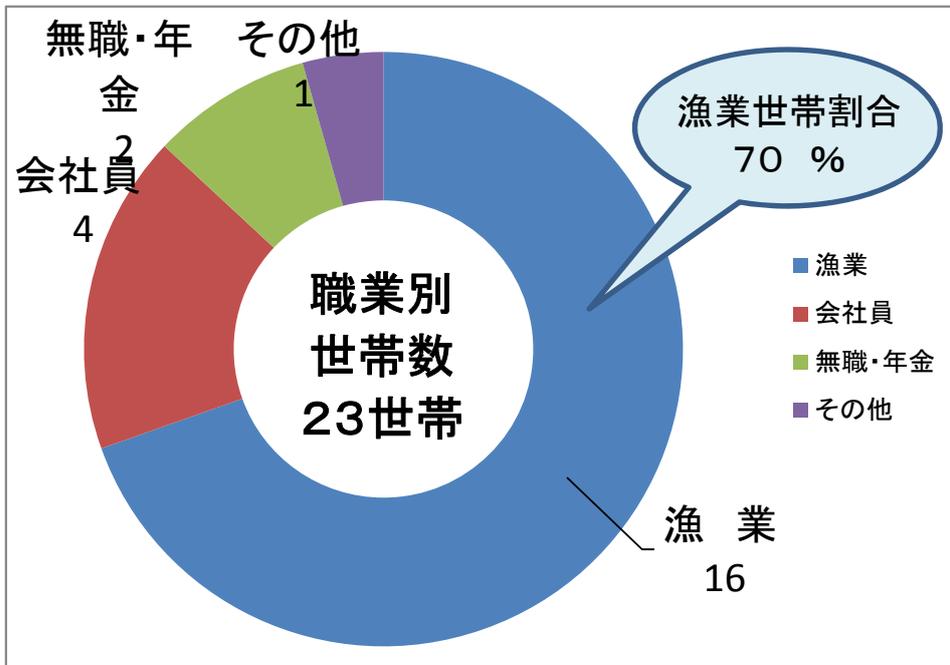
2) 職業別人口割合



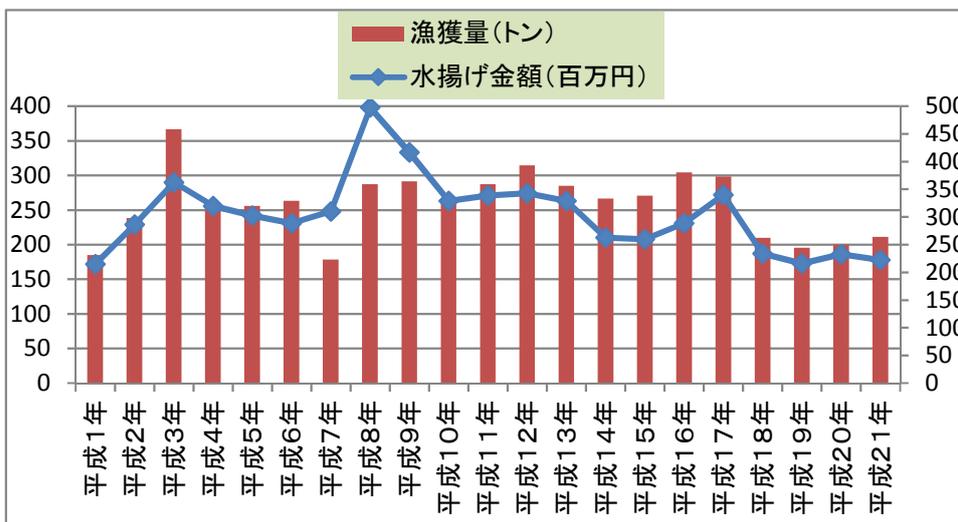
第3節 産業構造

①主産業

この地区は寄留と呼ばれる人たちの漁の寄港地であったため、水産業のみが発達した。地形的にも国有林に囲まれ、私有財産の確保が難しく農林業は発達しなかった。



水揚量・漁獲金額の推移



第4節 地区の整備状況

① 産業基盤（漁港整備）

昭和29年7月12日付けで第1種漁港に指定され、数次に渡り局部改良事業、改修事業、地域基盤整備事業と整備を行い、平成16年度に完了し現在の形となっている。

○整備開始頃



○整備完了



②交通体系

平成6年に志越トンネルが開通し順次主要地方道（県道）が整備され、他地域へのアクセスが容易になった。大型保冷車の通行も可能となり、漁獲物の搬出としての産業道路や通院通学などの生活道路として重要な役割を果たしている。



法面より県道、漁港を眺望



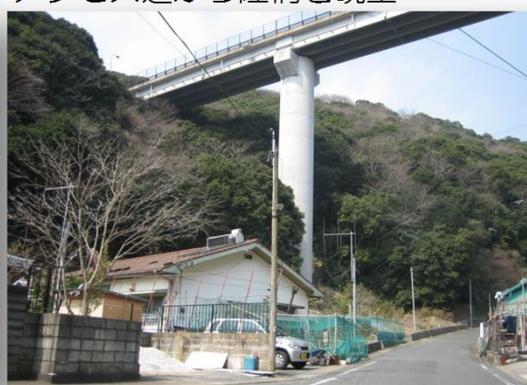
陸橋よりアクセス道を展望



港より陸橋を眺望



アクセス道から陸橋を眺望



③防災体系

○消防設備

消防ポンプ、防火水槽、消火栓の整備は済み、充足している。

・小型消防自動車



・防火水槽



・消火栓



○防災環境

地区が急峻な山あい立地しているため、住居の背後まで崖が肉迫している。落石で被災を受けた部分は防護擁壁が整備されているものの、未整備の箇所は多数ある。



○情報伝達

CATV事業により全島を網羅する高速通信網が整備されるのに伴い、既存の防災無線に代わり個別受信機が各戸に配置され、情報の一元化と緊急告知が可能となっている。

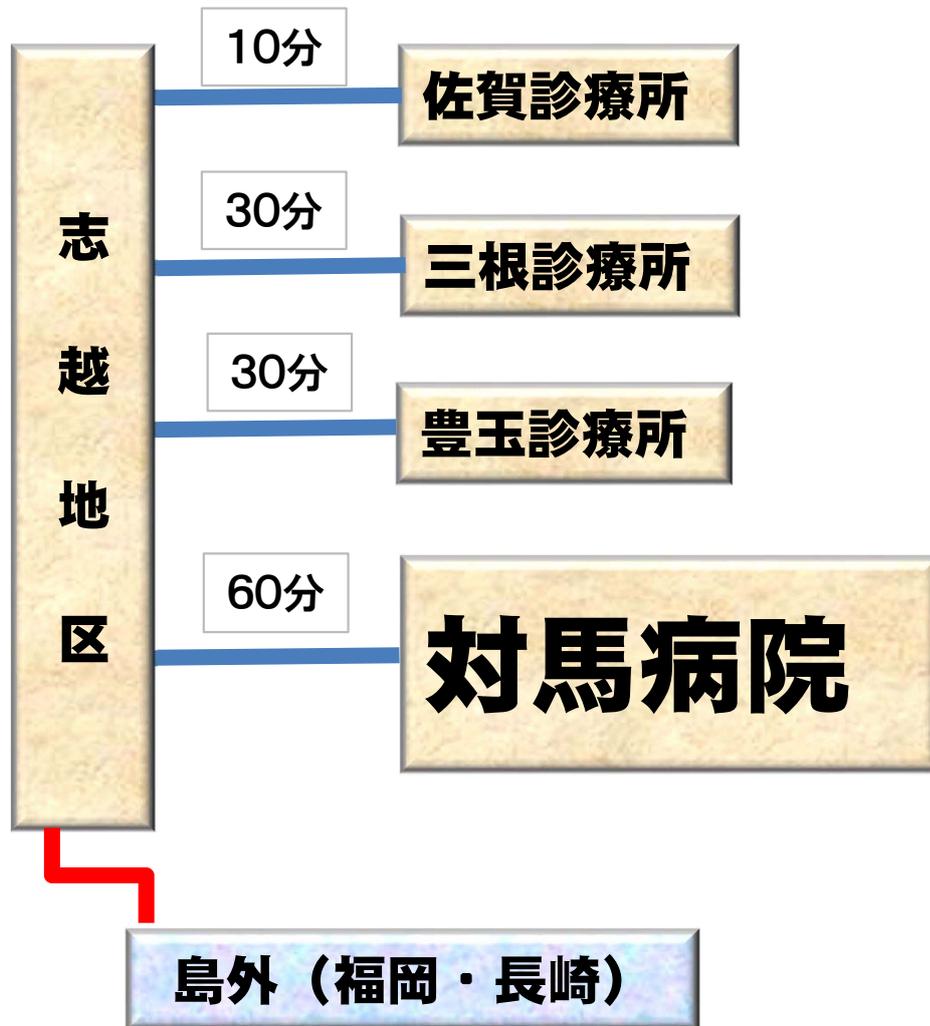
また、地区内の放送も個別受信機から可能となっている。



第5節 生活環境

① 病院・診療所

地区からの医療施設までの所用時間は下記のとおりで、専門医療については福岡長崎方面へ空路又は海路を利用し受診している。



・飛行機

・ジェットfoil

・フェリー

② 集 会

本地区は世帯数も少ないため、まとまりをもって行動している。集会施設については昭和57年に多目的集会施設が整備され、地区集会をはじめとする各種会議、行事に利用している。



③ 行 事

ちんかんフェスタ



ほけんきよ(鬼火焚き)

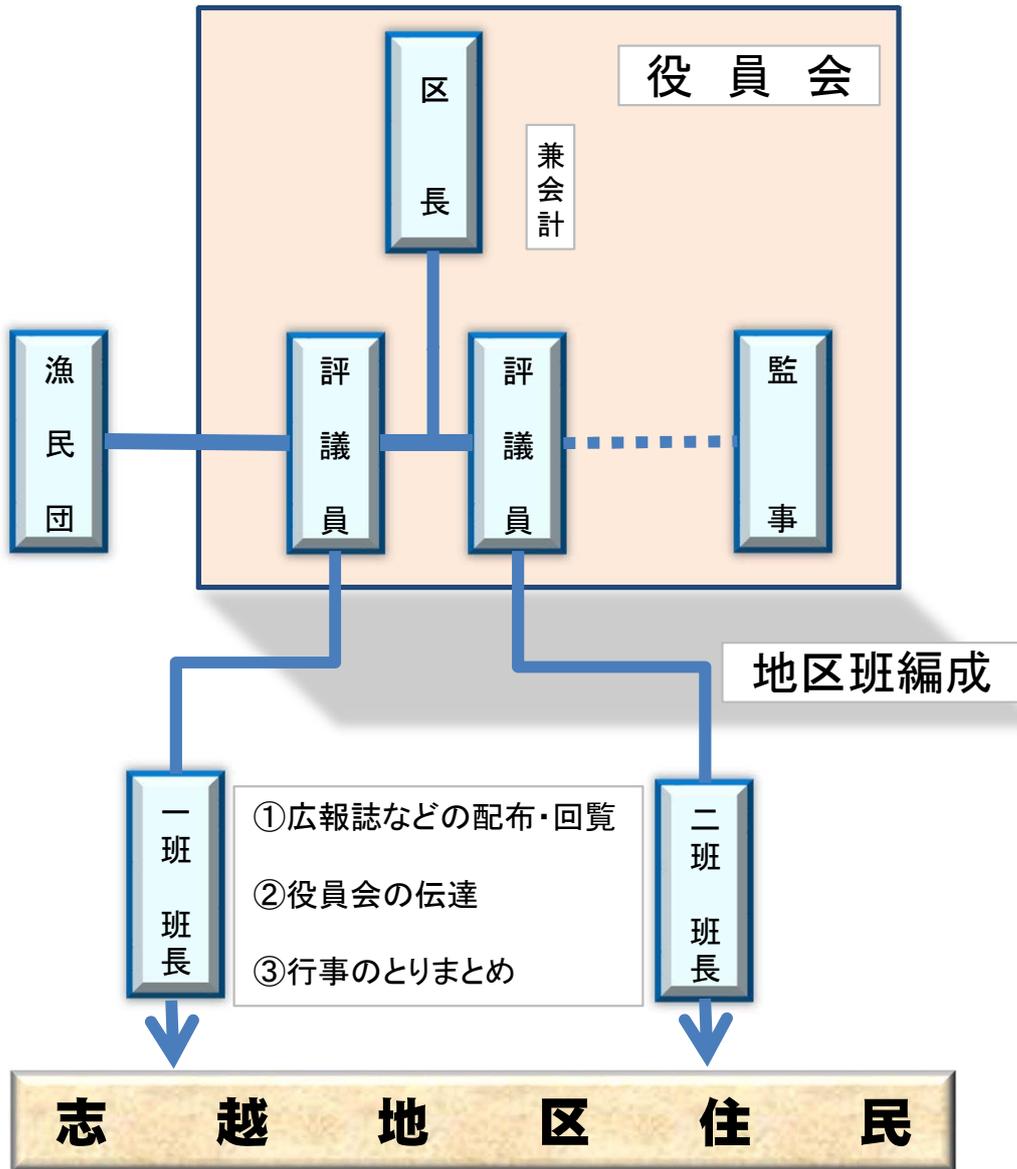


イカ供養



第6節 自治組織

(1) 組織図



地区総会の様子



(2) 志越地区の活動状況

平成26年度

月日	会議など	内容など
4月	役員会	顔合わせ・総会協議
	地区総会	決算・予算・役員改選など
	漁民団総会	イカ供養協議他
	磯区役	ひじきの採取・乾燥
	レクリエーション	グランドゴルフ大会
	管理区役	防波堤電柱立て替え
5月	管理区役	水銀灯取替
6月	空き缶回収	子ども会協賛
8月	管理区役	地区内大掃除
10月	金比羅宮祭典	
	臨時総会	地域づくり計画協議
12月	役員会	地域づくり計画協議
1月	漁民団合同漁祭り	海難防止講習会
2月	恵比寿祭り	
3月	管理区役	地区内大掃除

(3) 地域マネージャ制度を活用した活動の経過

平成20年12月11日 地域マネージャ制度説明
地区参加者 15名

平成22年9月7日 第1次対馬市総合計画後期計画にかかる
地域意向ヒヤリング

平成23年5月26日 地域づくり計画策定意見交換会
地区参加者 7名

平成23年12月20日 地域づくり計画策定役員意見交換会
地区参加者 4名

平成24年2月13日 地域づくり計画策定役員意見交換会
地区参加者 6名

平成27年6月18日 地域づくり計画策定役員意見交換会
地区参加者 4名



第3章 地区の課題

第1節 地区診断

地域づくり計画を策定するにあたり、地区の問題点、課題を浮かびあがらすために、平成23年7月に全世帯対象にアンケートを実施しました。

項目毎に住民の満足度、施設の充足度をレーダーグラフにまとめた。

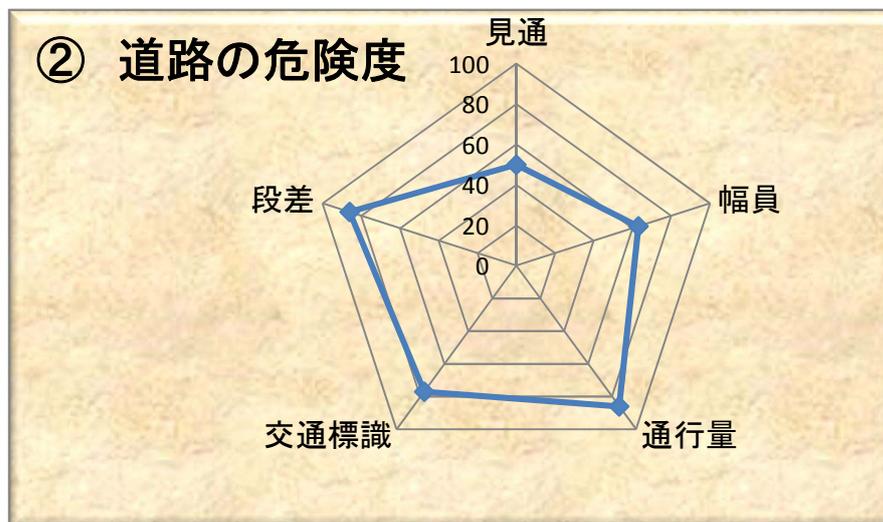
① 防災について

消火設備や防犯灯については概ね満足度が高いものの、崖地や避難についてはまだ不十分の意見がある。

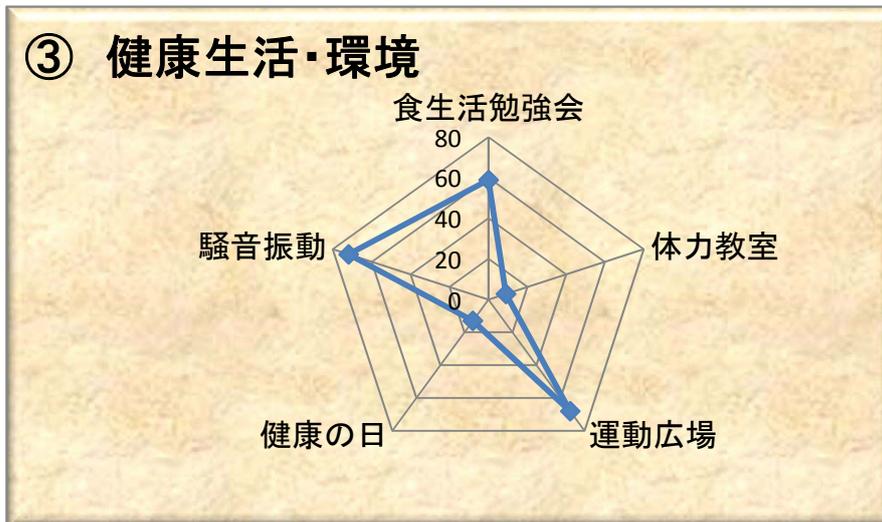


② 道路の危険度について

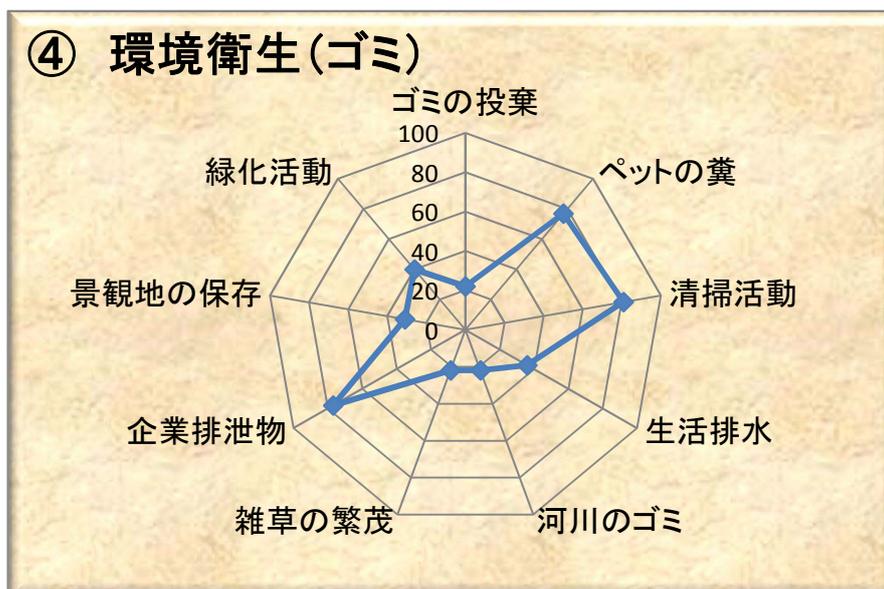
道路の整備は進んでいるものの、一部県道と地区の進入口で見通しの悪い部分が見受けられる。



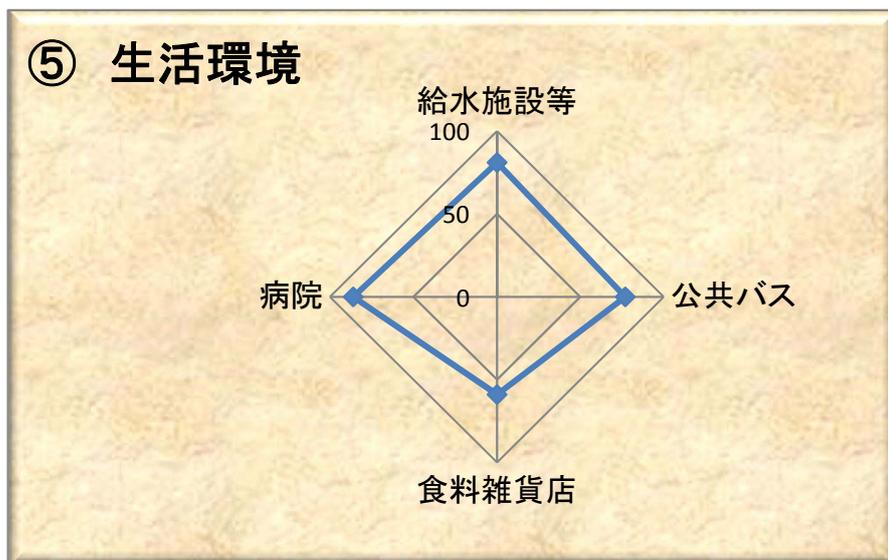
- ③ 健康生活・地区環境について
 地区内の騒音や運動広場には良好な環境が備わっているが、体力教室の開催などが無い。



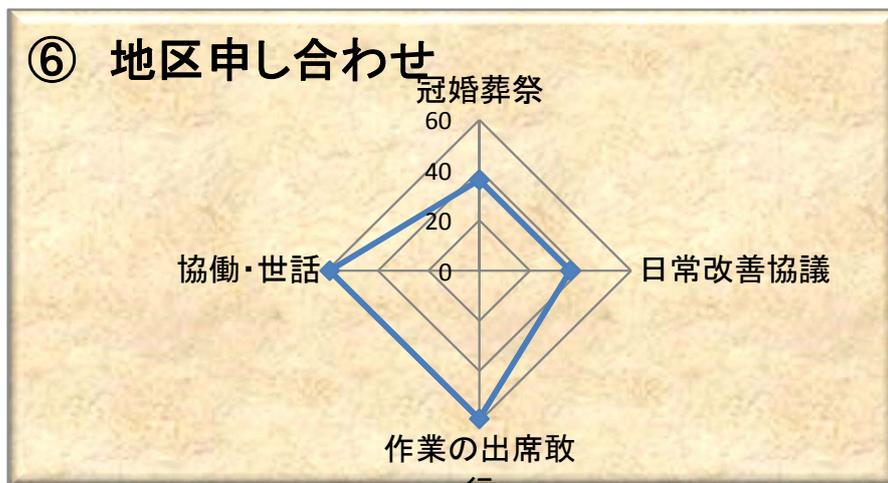
- ④ 環境衛生(ゴミ)について
 ゴミの不法投棄や高齢化による雑草の処理、緑化活動の停滞などが問題となっている。



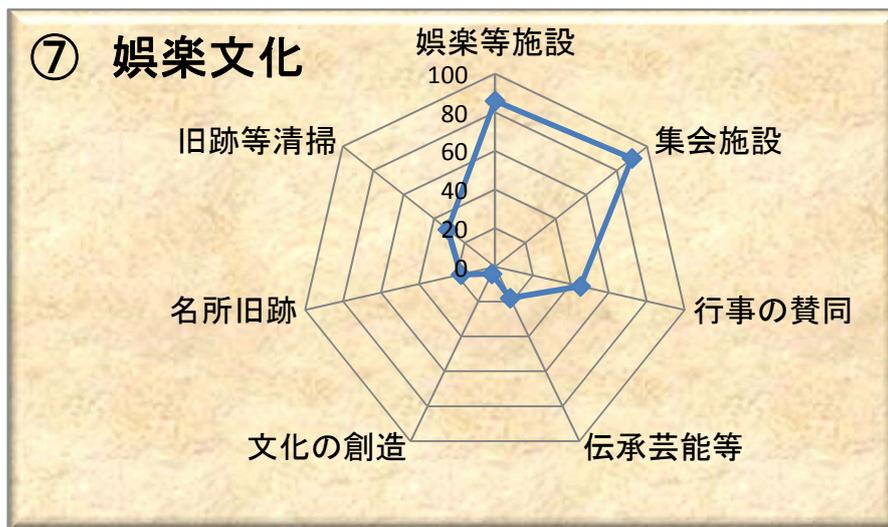
- ⑤ 生活環境(インフラ整備)について
生活インフラはほぼ満足できる環境である。



- ⑥ 地区の申し合わせ事項について
祝儀、葬儀、病気、事故、災害などの手伝いや見舞い、作業の手伝い、留守中の子供や高齢者の世話などの申し合わせや集合時間の厳守、会合や共同作業への出席敢行、あいさつ敢行などの申し合わせはよくされている。



- ⑦ 集会施設は専ら地区の総会などに使用され、文化面にはほとんど利用されていない。名所旧跡もなく、集落の成り立ちが新しいため伝承芸能もない。



- ⑧ 地区の自治活動はほぼ満足のいく数値であるが、婦人会等の団体活動が消滅しつつある。



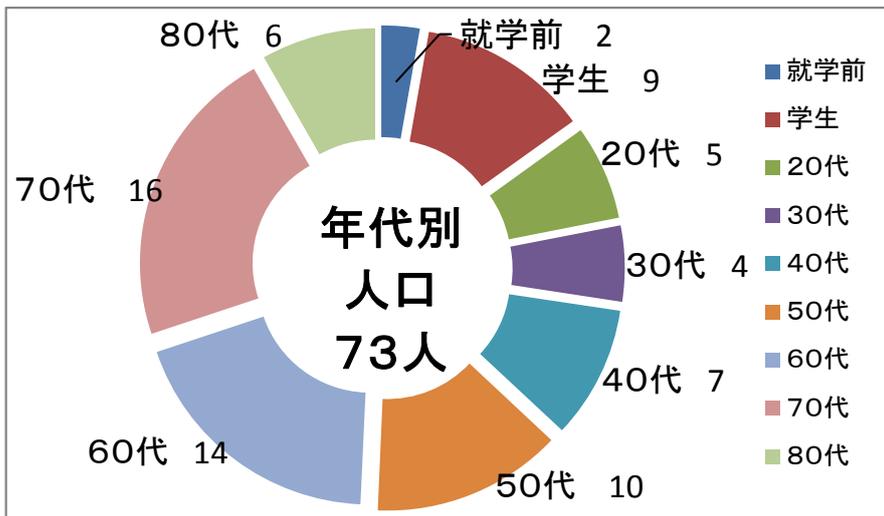
第2節 課題

(地区診断表の結果から)

① 病院問題

高齢化がすすみ、通院療養者が多くなっている。自家用車の運転もままならない状況の中、唯一の公共交通機関であるバスも運行時間帯わるく、通院に苦慮している。

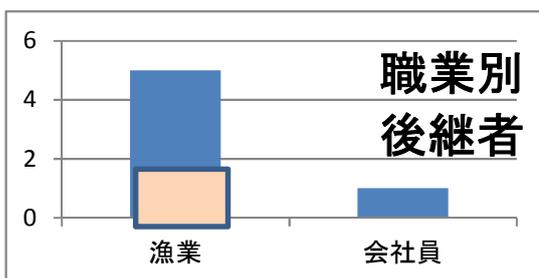
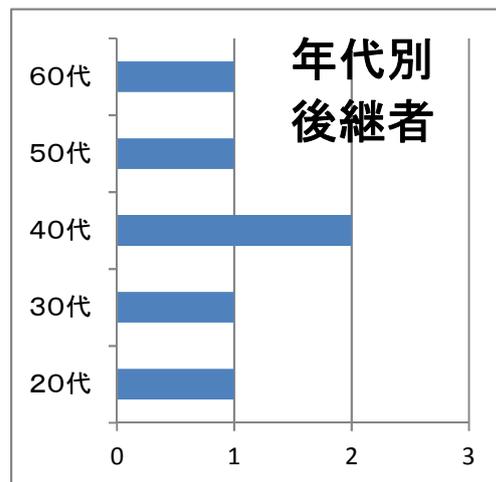
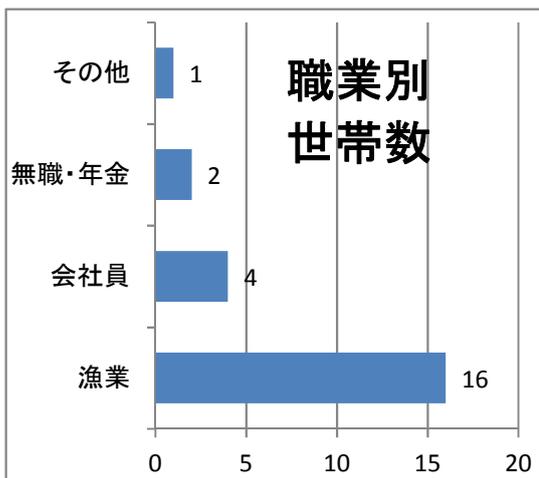
また、医師が高齢者であるため、いつ閉院になるか大いに心配である。



② 後継者問題

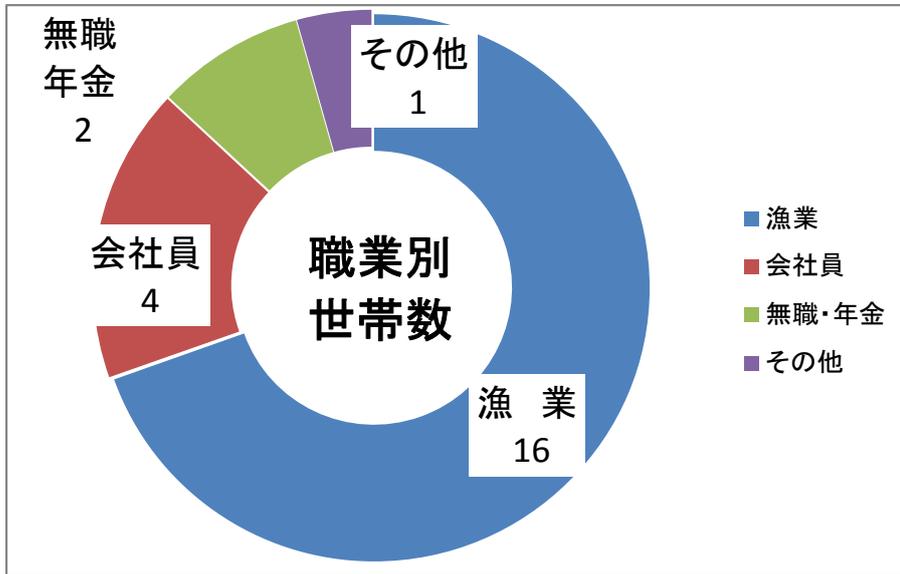
地区の23世帯中後継者は6人である。うち40代以下の漁業後継者は2人である。

この地区の主産業は漁業であるが、後継者不足は水産魚の衰退をまねくばかりでなく、地域経済の根幹がうしなわれる恐れがある。

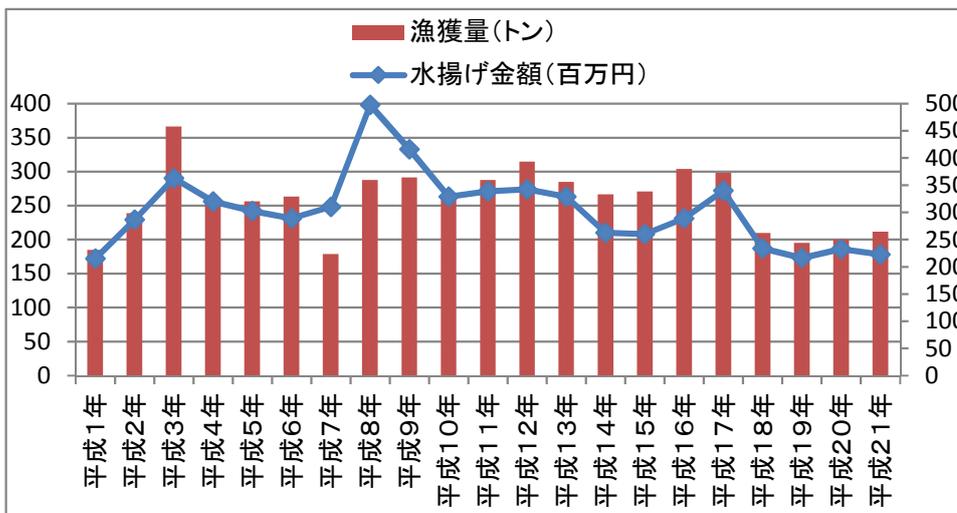


③ 産業の振興

この志越は漁業の地区である。23世帯のうち漁業世帯は16世帯で約7割をしめる。漁業構造はイカの本釣りや定置網漁業である。



漁獲量の推移は下表のとおりである。



漁獲量は堅調に推移しているように見えるが、後継者不足や就業者の高齢化で、不安は大きい。近くにこれといった産業も無いため、水産業に頼らざるを得ない。老人や女性の小労力で可能な水産業の構造改革が必要である。

④ 環境問題

イノシシなどの鳥獣被害が顕著になっている。地区の内外に花を植えたりして環境美化に取り組んでいるものの、イノシシに食い荒らされ無残な状況である。

高齢化により、住居周辺の除草作業がこまめに行えず、雑草の繁茂期には目に余る箇所が多くなりつつあります。

また、道路が整備され交通量が多くなり、運転者のマナー不足も加わり空き缶の不法投棄が多くなり、環境の悪化が進んでいる。

⑤ 防災問題

防災に関しては特にありませんが、平成23年3月11日に起きた東日本大地震とそれに起因する津波、東京電力福島原子力発電所放射能汚染問題など新たな問題が起きている。
今後類似の問題が生じる恐れがある。

(地区の具体的な課題)

① 浮棧橋の設置

志越漁港は、近隣の漁港に比べて非常に岸壁が高く、荷揚げ作業時の出荷製品の海中落下や、作業員の海中転落などが後を絶たない状況となっている。

② 漁港施設の浚渫工事

漁港内が長年の土砂の堆積により、水深が浅くなっているところがあるため船舶が海底に接触することがあり大変危険な状況となっている。

また、漁港内を船舶が航行する際に、海底の汚泥が拡散して近隣の養殖業や環境に悪影響を及ぼすことが心配される。

③ ふれあい公園へのフェンス及び照明灯の更新 (LED)

鹿や猪対策のため、公園を取り囲むフェンスの設置が必要である。
また、省エネ対策として、照明灯をLED照明灯へ更新が必要。

④ 道路施設の改修

地区取付道路の法面が劣化し、落石やフェンスの破片が道路上に転落している。

大浜取付道路の志多賀側から進入した最初のカーブでヒューム管が詰まり、溢れ出した水で道路が冠水している。

⑤ 砂防ダムの堆積物除去

大浜砂防ダムへ土砂や倒木などが堆積して大雨時には堆積物がダムを越えて流れ出している。

第3節 課題に対する具体的な取組

1. 病院問題

1) 通院問題

志越地区は現在、病気の重篤度や専門医療に応じて佐賀診療所、豊玉診療所、対馬病院に通院している。

通院に要する時間は、生活環境欄に記載しているとおりである。

通院には自家用車を主に使用している。これは、唯一の公共交通機関である対馬交通のバス便が悪いためである。運行本数の少なさもさることながら、現在の運行時間では受診時間によっては、バスに間に合わなくなってしまうのである。

高齢化がより一層進めば、高齢者世帯での自家用車通院はままならないものがある。

これらの状況を鑑み、今後次のように取り組むこととした。

- ①地区内の絆を強め、連携による自家用車の混乗を勧める。
- ②市とバス事業者の本数増加やバス運行時間の変更を求める。
- ③地域コミュニティバスの運行を市に要望し、通院・買い物に利用する。

2) 病院存続問題

佐賀診療所は地域医療の最重要拠点である。軽度な病気や怪我、高齢者の慢性病には必要不可欠であった。医師の高齢化により存続が危惧されており、地区として次のとおり取り組む。

- ①市に対し、診療所の存続対策を要望する。

3) 健康問題

高齢化とともに病気が多く発症したり慢性化する。地区として、個々人の健康維持につとめるため、次のとおり取り組む。

- ①個人の健康意識の改善・啓発に努めるよう、市の保健部局や地区の食生活改善グループと協調し、健康学習を行う。
- ②体力維持のため、保健師を講師に健康体操を行う。
- ③食生活改善のため、栄養士の指導を受け、減塩食事を推奨する。

2. 後継者・産業振興問題

1) 後継者問題

志越地区は、漁業集落である。水産業の衰退と共に漁業後継者は進学や職を求め島外に流失している。地区又は島内に職を創造するか水産業の再興がなければ、このような状況は続くものと考えられる。

地区としては有効な対策を講じることも出来ないため、静観するのみである。

唯一出来ることがあれば、住環境の改善を図り、誰でもが住んでみたい地区を目指すのみである。そのために、次の取組を行う。

- ①干渉しすぎない範囲において、隣人関係の融和・強調を推進する。（共同作業の積極的参加、挨拶励行、冠婚葬祭の互助）
- ②住環境の整備を行い、清潔で快適な地区を創る。（除草の推進、ゴミの不法投棄の防止・抑制）

3. 環境問題

1) 空き缶などの不法投棄

地区内を横断する県道を走行する車輛からの空き缶などの不法投棄が後を絶たない。ドライバーのマナー向上の啓発ポスター掲示板を作成する。

また、投棄集中箇所の環境整備を道路管理者に要望するとともに、不法投棄の取り締まりの強化を行政などに要請する。

2) 道路周辺の環境整備について

ポイ捨てされた空き缶、煙草の廃ケース、ペットボトルを、地区のクリーンアップ作戦で拾い集める。

3) 廃屋周辺の環境整備について

転居で不在となった家屋の周辺の除草については、地区内の一斉掃除で行う。

4. 防災問題

1) 津波対策について

通常の暴風雨や一般災害用の避難施設として多目的集会施設が利用できる。ただ、海拔3メートルしかないので、津波に対応しているとはいえない。

市の防災計画に津波避難施設の整備を要望する。

また、自主防災として、関係機関の指導による避難訓練・学習会を行う。

2) 急傾斜対策について

災害危険箇所の点検を自主的におこない、施設の整備が必要な箇所は関係機関に要望する。

5. その他

1) 補助事業の活用

地区の様々な課題を解決するため、市などの補助金を活用し地区が主体となり積極的に事業を実施する。

①対馬市「わがまち元気創出」支援事業補助金

②対馬市地域マネージャー制度事業補助金

③対馬市アドバイザー派遣支援事業

④地域マネージャー制度事業原材料費支給制度

⑤新規ビジネス応援事業補助金

第4節 今後の具体的な取組

項目	内容	取組主体	取組内容
1. 病院問題	1) 通院手段		
	車で30分以内に病院はあるか ある 19人 ない 2人 ・高齢化が進み通院手段がない	地域	・地区協働として、自家用車などの乗り合いで通院する。
		市	・公共交通機関であるバスの運行時間帯の融通を要望 ・コミュニティタクシーの運転
	2) 病院の維持		
	医師が高齢である ・佐賀診療所の医師が高齢である	市	・地区では対応出来ないため、地域の医療施設の存続を要望する ・特定日診療 ・往診の充実
(関連項目)	ア) 食生活		
	食生活改善のための勉強会を定期に行っている いる 4人 いない13人	地域	・婦人会を中心に、栄養士などを招致し、学習会、調理実習を行う。
	イ) 体カづくり		
	体カづくりのためのスポーツ教室、体力測定を定期に行っているか いる 2人 いない16人	地域	・保健師や体育指導員を講師により、定期的に学習会を行う。 ・レクレーション開催時に、体力測定などをおこない、自己体力の診断を行う。
2. 後継者問題	少子化や就職環境の悪化で子供達が島外へ流出している。	市	・産業の振興を要望し、近隣地区内に就業の場を創設する。
(関連項目)	ア) 共同作業参加		
	共同作業への出席敢行などの申し合わせがなされているか いる 13人 いない 6人	地区	・地区内清掃や正月の鬼火焚き等全員参加で行っている。今後も隣の声懸け運動を続け、共働していきたい。

項 目	内 容	取組主体	取 組 内 容
	イ) 冠婚葬祭等		
	冠婚葬祭等の手 伝い、子供や高 齢者の世話など の申し合わせは あるか いる 13人 いない 6人	地区	<ul style="list-style-type: none"> • 大まかな申し合わせは出来ている。個人対地区とのバランスを考慮しながら実施している
	ウ) 行事・祭り		
	全員で楽しめる 祭りや行事が、 住民の賛同を得 て計画されてい るか いる 10名 いない 9名	地区	<ul style="list-style-type: none"> • イカ供養等全員で協議しながら行っている。 • 数年前まで『ちんかんフェスタ』の盆行事を行っていたが、子供や指導者不足で中断している。復活させたい。
	エ) 集会・会議		
	会議や集会に利 用する施設はあ るか ある 20名 ない 1名	地区	<ul style="list-style-type: none"> • 施設は昭和57年に建設された多目的集会室が有り、地区総会等地区行事に大いに利用している。
	オ) 自治会運営		
	自治会の運営が 円滑に行われて いるか いる 17名 いない 1名	地区	<ul style="list-style-type: none"> • 総会や役員会で協議し、決定されたことは全員で行っている。今のところ問題は無い。
	役員の子世代交 代が進んでいるか いる 14名 いない 3名	地区	<ul style="list-style-type: none"> • 少子高齢化や後継者問題を抱えているが、現状の段階では円滑に行われているが、役員は準固定化している。
	住民への連絡事 項の伝達につた わっているか いる 19名 いない 1名	地区	<ul style="list-style-type: none"> • 対馬市広報の配布や、共同作業の連絡は円滑である。班長を通じ的確に伝わっている。
	平素の暮らしで 困ったことを地 域で解決する仕 組みがつくられ ているか いる 10名 いない 8名	地区	<ul style="list-style-type: none"> • 地区の行事をとおして住民同士が相談できる関係を創ります。

項 目	内 容	取組主体	取 組 内 容
	自治会活動に子供、青年、女性、高齢者の意見が反映される仕組みになっているか いる 9名 いない 8名	地区	・役員会や総会で内容等は決定しているが、役員の準固定化で意見が偏る場合もある。役員選定を含め改善の余地がある。
3. 産業の振興	後継者もなく、就業者の高齢化が進んでいる。漁業資産だけしかない本地区にとって、高齢者や女性が働ける水産業の育成がもとめられる。	地区 市	・地区の特性～産業、労働力 ・観光と産業 ・集客 ・販売 ・地区内事業者の協力
4. 環境問題	1) 猪対策		
	イノシシの被害が拡大している環境美化で花を植えているが、食べられている	地区 市	・ワイヤーメッシュ柵を設置する。 ・駆除対策について要望する。
(関連項目)	ア) ゴミの不法投棄		
	河川、山林に空き缶などゴミの不法投棄があるか ある 13名 ない 5名	地区 市	・運転手のマナー低下により、道路からの不法投棄が見受けられる。投棄場所の整頓を行い、投棄しにくい環境整備を行う。 ・環境パトロールの強化を要望
	イ) 地区の環境美化		
	ペットの糞など広場などに捨てられていないか いる 1名 ない 17名	地区 市	・この環境を維持する。
	ウ) 生活排水		
	生活排水が直接側溝、河川、海に流されていないか いる 11名 いない 8名	地区	・総会や共同作業時に生活排水の処理等についての勉強会を実施し、意識改革に繋げていく。 ・環境王国 ・EM菌の普及促進

項 目	内 容	取組主体	取 組 内 容
	エ) 雑草		
	雑草が生えている箇所はないか ある 15名 ない 5名	地区	・地区の共同作業として、定期的に除草に取り組む。
		市	・除草経費の一部を軽減するため、まちづくり補助金等を活用する。
	オ) 緑化活動		
	地域美化のために緑化活動がおこなわれているか いる 9名 いない 9名	地区	・花などの緑化活動をしていたが、イノシシに食べられ中断している。
		市	・イノシシ対策を要望する。
5. 防災問題 (関連項目)	1) 地震対策		
	東日本大地震時に津波、放射能汚染問題が発生した。 類似の事態に対処するための防災計画の見直しが必要である。	地区	・避難訓練 ・勉強会
		市	・災害時に人命を守ることを最優先とする情報提供を要望する。
	ア) 消火設備		
	防火水槽、消火栓は整っているか いる 16名 いない 3名	地区	・消防団員と消火訓練 ・防火デーの設置
		市	
	イ) 防犯灯		
	夜間暗いところに防犯灯はあるか ある 17名 ない 4名	地区	・防犯灯の点検 ・既存の電柱の点検
		市	
	ウ) 浸水		
	雨で浸水しやすい住まいはあるか ある 4名 ない 16名	地区	・避難訓練の実施
		市	・大雨時の情報提供

項 目	内 容	取組主体	取 組 内 容
	工) 急傾斜		
	崖崩れや落石の危険にさらされている住まいはないか ない 9名 ある 10名	地区	<ul style="list-style-type: none"> • 自主見回り • 該当住民への研修
		市	
	オ) 避難施設		
	災害時に避難する施設はあるか ある 13名 ない 7名	地区	• 防災マップの自主作成
		市	• 津波災害時の避難施設の整備

第5節 課題解決時期

計 画 の 内 容	解決すべき時期		
	早期	中期	長期
① 病院問題	○		
② 後継者問題	○		
③ 産業の振興	○		
④ 環境問題	○		
⑤ 防災問題		○	

第4章 資料編

地域の自己診断アンケート結果状況

項目	調査内容	現状(回答)			要望など
		いない	いる	無回答	
防災防犯	防災、防犯体制は整っているか	いない	いる	無回答	・防犯灯のみ。 ・もう一つ欲しい。
		5	13	4	
	防火水槽又は消火栓は整っているか	いない	いる	無回答	
		3	16	3	
	災害時の報知(サイレン等)は整っているか	ある	ない	無回答	・2箇所ほしい。 ・1箇所だけだ。 ・スイッチだけでも必要。
		14	6	2	
	古井戸、池、用排水路、道路側溝など安全のための設備(柵、蓋、照明、看板など)が設けられているか	いない	いる	無回答	
		4	15	3	
	夜間、暗い所に防犯灯は設けられているか	いない	いる	無回答	
4		17	1		
雨が降ると水に浸かりやすい住まいはないか	ある	ない	無回答	・大浜に数件大潮の時に心配	
	4	16	2		
崖崩れや落石の危険にさらされている住まいはないか	ある	ない	無回答	・家の裏など ・国有地にはさまれている中浜地区	
	10	9	3		
災害の危険性がある時、避難する場所はあるか	ある	ない	無回答	・今永氏	
	13	7	2		
道路	見通しが悪くて危険を感じているところはないか	ある	ない	無回答	・志越集落取付道路 ・県道から大浜にかけての市道
		8	11	3	
	道幅が狭く、危険を感じているところはないか	ある	ない	無回答	・志越集落取付道路
		7	14	1	
	車の通行量が多く、かつ歩道が無い為危険を感じているところはないか	ある	ない	無回答	・地区内にはない
2		19	1		
カーブミラー、交通標識等は必要に応じて設置されているか	いない	いる	無回答		
	4	17	1		
地域内道路で段差があって、高齢者や障害者等に危険と思われるところはないか	ある	ない	無回答	・集落内浜道路	
	2	19	1		
こどもの遊び場	子どもたちが自然とふれあえる場所、あるいは土の上で遊べる遊び場はあるか	ない	ある	無回答	・公園
		0	21	1	
	遊び場は、大人の目が届く状態になっているか	いない	いる	無回答	・集落から遠い ・親がついているが目はとどかない ・海水浴をするための海岸においては届かない
11		9	2		
遊び場は、子どもが安全に往復できる場所にあるか	ない	ある	無回答	・崖崩れの不安 ・落石防止柵等が整備された	
	5	11	6		

項目	調査内容	現状(回答)			要望など
健康生活	健康を守るための食生活等についての勉強会を計画的に行っているか	いない	いる	無回答	
		13	4	5	
	体力づくりのため、体力測定、スポーツ教室、スポーツ活動などを計画的に行っているか	いない	いる	無回答	
		16	2	4	
	気楽に楽しめる軽スポーツや催し物ができる広場が近い場所にあるか	ない	ある	無回答	
	3	15	4		
健康生活	健康を守るための「家族の日」や「農林日」が設けられているか	いない	いる	無回答	
		15	3	4	
	休養や睡眠を妨げる騒音や振動、悪臭などないか	ない	ある	無回答	
		16	3	3	
	道ばた、河川、山林、空き地などにゴミ、空き缶などが捨てられていないか	いる	いない	無回答	
	13	5	4		
環境衛生	ペットの糞などがよく捨てられている道ばた、公園、山林、空き地などはないか	ある	ない	無回答	
		1	17	4	
	道路、側溝、集会施設、花壇などは、時期を決めて、一斉に清掃作業が行われているか	いない	いる	無回答	
		2	18	2	
	生活排水が、直接、道路、耕地、用水路、河川などに流されているところはないか	ある	ない	無回答	
		11	8	3	
	河川などにゴミなどがたまりやすい所はないか	ある	ない	無回答	
		12	5	5	
	雑草が生えているところはないか	ある	ない	無回答	
		15	5	2	
環境衛生	汚水、汚物、ばい煙、ガス、粉、有害廃棄物など、企業排出物による被害はないか	ある	ない	無回答	
		1	17	4	
	将来に残しておきたい自然(山、河川、景観地、珍しい動植物)があるか	ない	ある	無回答	・わからない
		8	7	7	
	地域内美化のため、花づくりや緑化活動などが行われ、整備されているか	いない	いる	無回答	・地区外の市道においてははされている
	9	9	4		
生活環境	共同給水施設(上水道、簡易水道、小規模水道など)が設けられているか	いない	いる	無回答	
		1	18	3	
	通勤、通学、買物、などにバス等の便があるか	ない	ある	無回答	
		3	17	2	
生活環境	食料品、雑貨など日常生活に間に合う程度の商品があるか(概ね2~3km)	ない	ある	無回答	
		8	13	1	
生活環境	病院、医院があるか(車で30分以内)	ない	ある	無回答	
		2	19	1	
地区申し合わせ	冠婚葬祭の合理化について、申し合わせがなされているか	いない	いる	無回答	・地区葬で行われているが最近では業者にたのむケースもある
		10	8	4	
	日常の付き合いやしきたりの中で、住みにくさについて改善の話し合いや申し合わせがなされているか	いない	いる	無回答	
		10	8	4	
地区申し合わせ	集合時間の厳守、会合や共同作業への出席敢行、あいさつ敢行などの申し合わせがなされているか	いない	いる	無回答	
		6	13	3	
地区申し合わせ	祝儀、葬儀、病気、事故、災害などの手伝いや見舞い、作業の手伝い、留守中の子供や高齢者の世話などの申し合わせがなされているか	いない	いる	無回答	
		6	13	3	

項目	調査内容	現状(回答)			要望など
娯楽文化	会議、娯楽、催し物など多目的に利用できる施設があるか	ない	ある	無回答	
		0	19	3	
	簡単な会議や集会など、人々が集まる施設が身近にあるか	ない	ある	無回答	
		1	20	1	
	みんなで楽しめる祭り、盆踊り、運動会などの行事が、住民の賛同を得て計画されているか	いない	いる	無回答	・子どもが参加できるものが少なくなった ・子どもが少なくなり楽しみがなくなった
		9	10	3	
	ふるさとの歴史、芸術、芸能、物財などの掘り起こし、保存、伝承などが行われているか	いない	いる	無回答	
		14	4	4	
	新しい文化の創造が行われているか	いない	いる	無回答	
		18	1	3	
住民活動	寺社、名所旧跡、名物名産、人材、物財など、自慢できるものがあるか	ない	ある	無回答	
		15	4	3	
	名所旧跡、物財などの管理、清掃などが行われているか	いない	いる	無回答	
		10	7	5	
	婦人会、青年組織、子供会、老人会などがあり、計画的に活動しているか	いない	いる	無回答	
		12	6	4	
	生産や生活に関する集団や組織があり、計画的に活動しているか	いない	いる	無回答	・漁民団等
		9	9	4	
	趣味の会、同好会などがあり、計画的に活動しているか	いない	いる	無回答	
		16	2	4	
	住民への連絡事項は速やかに伝えられているか	いない	いる	無回答	
		1	19	2	
	自治会の運営が円滑になされているか	いない	いる	無回答	
		1	17	4	
地域の暮らしを高める活動が行われているか	いない	いる	無回答		
	7	10	5		
年間予算が編成され、計画的に運営されているか	いない	いる	無回答		
	6	12	4		
平素の暮らしで困ったことを、地域で解決する仕組みが作られているか	いない	いる	無回答		
	8	10	4		
自治会活動に、子ども、青年、女性、高齢者など戸主以外の意見が反映できる仕組みになっているか	いない	いる	無回答		
	8	9	5		
役員等の世代交代が進んでいるか	いない	いる	無回答		
	3	14	5		
単なる要望団体ではなく、地域のことは地域で解決するという基本的姿勢は浸透しているか	いない	いる	無回答		
	3	15	4		
他の地域や組織等と共同した活動を行ったり、話し合う仕組みができていますか	いない	いる	無回答		
	7	10	5		